

令和7年度 シラバス (国語)

学番 10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	国語 (現代の国語)	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	三省堂『新 現代の国語』				
副教材等	三省堂『新 現代の国語 学習課題ノート』 第一学習社『意味から学ぶ常用漢字』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをととして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をととして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

①基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 ②文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ③多様な見方、考え方、感じ方にふれ、豊かな感性と判断力を育てることを目指します。 ④伝えあう力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した国語教育を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価規準と評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト等の分析 ・レポートや提出物などの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト等の分析 ・発表や討論への取り組み内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートなどへの取り組み状況 ・発表や討論への取り組み姿勢 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域ごとの 授業時間	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	わかり合う ために	7 読む	鷲田清一 「届く言葉、届 かない言葉」	・言葉には、認識や思考を支え働きがあることを理解 するとともに、内容や構成、論理の展開などについて 叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	7	ノート等 （記述の確認） 発表等 （行動の確認） 定期考査 等
	確かな情報 を伝えるた めに	8 話す 聞く	押井守 「ひとまず、信 じない」	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏 まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意などに配 慮した表現や言葉遣いについて理解する。	8	
7 8 9	情報を生か すために	9 書く	片田敏孝 「人が死なない 防災」	・実社会において理解したり表現したりするために必 要な語彙を豊かにするとともに、話や文章の中で使う ことを通して、語感を磨く。	9	
	よりよい読 み手になる ために	8 読む	佐藤信夫 「コインは円形 か」	・多様な視点から得た情報を相互に関係づけながら、 書き手の意図を解釈し、対象を総合的に把握するとと もに、自分の考えを深める。	8	
10 11	説得力を高 めるために	7 書く	鷲田清一 「折々のことば」	・日常生活や読書活動の中から、納得した言葉や共感 した言葉を見つけ、的確な表現でそれを紹介する文章 を書くことで、言葉のはたらきを意識する。	7	
	場に応じて 伝えるため に	8 話す 聞く	読み比べる－海 ガメの無念	・2つの文章を読み比べ、構成表現に着目しながら、 主張の違いを把握して表にまとめ、グループ内で報告 し合う。	8	
12 1 2	考えを共有 していくた めに	9 話す 聞く	安田菜津紀 「檻の中の"街"」	・写真で伝わること、文章で伝わること、写真と文章 で伝わること、それぞれの違いを把握する。	9	
3	よりよい書 き手になる ために	8 書く	鈴木孝夫 「ものとことば」	・比喩、例示、言い換えなどの修辞を意識して、文章 の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。	8	
	説得力を高 めるために	6 書く	芦田愛菜 「宝さがしみた いに本の世界へ 入っていきます」	・文章を読んで概要を把握し、「本との出会い、読書 の楽しみ方」についての自分の考えを発表する。	6	

計 7 0 時間（50 分授業）

※領域ごとの授業時数

A「話すこと・聞くこと」 2 5 時間	B「書くこと」 3 0 時間	C「読むこと」 1 5 時間
------------------------	-------------------	-------------------

7 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	3 5 %	2 5 %

8 課題・提出物等

- ・毎週、漢字テストを実施します。範囲は事前に指示するので、毎回満点を目標に学習してください。
- ・単元ごとに学習課題ノート等を利用してまとめ学習に取り組み、定期的に点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

9 担当者から一言

「現代の国語」は、実社会・実生活で役に立つ国語能力を育成する科目です。言葉による見方・考え方を働かせて論理的に考える力、他者に共感する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。授業では、実際に話したり書いたりする活動を通して、楽しみながら学んでいきましょう。

令和7年度 シラバス（国語）

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	大修館書店『新編 言語文化』				
副教材等	大修館書店『新編 言語文化 学習ノート』 第一学習社『意味から学ぶ常用漢字』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをととして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をととして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

①言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることに理解を深め、適切な使い方の修得を目指します。 ②我が国の言語文化に特徴的な語句や文法などの知識を深め、それらの文化的背景への深い理解を目指します。 ③時間の経過や地域の文化的特徴などによる変化を意識し、古典と現代の言葉のつながりへの理解を目指します。 ④音読、朗読、暗唱などの表現活動を通して、言語感覚を豊かにする国語教育を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の言語文化に対する理解を深め、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、作品に表れているものの見方、感じ方や考え方を適切にとらえ、自分のものの見方、感じ方や考え方を深め、我が国の言語文化について他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価規準と評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期検査や小テストの分析 ・レポートや提出物などの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期検査や小テストの分析 ・発表や討論への取り組み内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・意見文や提出物などの内容 ・発表や討論への取り組み姿勢 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域ごとの授業時間	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	表現を味わう	6 読む 1 書く	三浦哲郎 「とんかつ」	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や展開に着目し、作品の構造を理解する。	7	・課題やノート等の取り組み（記述等の確認） ・発表等の様子（行動の確認） ・定期考査等
	古文に親しむ	8 読む	「児のそら寝」 (宇治拾遺物語)	・繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。 ・兄と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。	8	
7 8 9	漢文に親しむ	1 読む	「訓読のきまり」 「格言」 「再読文字」	・漢文の訓読のきまりについて理解する。 ・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。	1	
	現代に生きることば	2 読む	「蛇足」 (戦国策)	・古くから使われている言葉の語源について考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。	2	
	物語を受け継ぐ	12 読む 2 書く	芥川龍之介 「羅生門」	・小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・原典となった古典作品との比較を踏まえて、内容の解釈を深める。	14	
10 11	随筆を楽しむ	15 読む	「奥山に猫またといふもの」 (徒然草)	・音読して古文の読みに慣れ、内容を正確に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考えを持つ。 ・古典文法を理解し、適切に判別できる。	15	
12 1 2 3	物語の広がり	15 読む	「芥川」 (伊勢物語)	・登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。 ・古典文法を理解し、適切に判別できる。	15	
	詩歌の調べ	2 読む 2 書く	「春のうた」 「夏のうた」 「秋のうた」 「冬のうた」	・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	4	
	旅への思い	2 読む	「門出」 (土佐日記)	・文章展開や和歌に注意して、登場人物の心情を読み取る。 ・作品の主体と表現の特色を理解する。	2	
	漢文を楽しむ	2 読む	「完璧」 (十八史略)	・音読を通じて漢文音読の口調になれる ・古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。	2	

計 70 時間（50 分授業）

※領域ごとの授業時数

A 「書くこと」 5 時間	B 「読むこと」 6 5 時間【近代以降 20 時間＋古典 4 5 時間】
------------------	--

7 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40 %	40 %	20 %

8 課題・提出物等

- ・古文と漢文では、基礎事項などについての小テストを実施します。
- ・単元ごとに学習ノートを利用してまとめ学習に取り組み、定期的に点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

9 担当者から一言

「言語文化」は、生涯にわたる社会生活で役に立つ国語能力を育成する科目です。外国文化から影響を受けつつ発展してきた日本の言語文化に理解を深め、言葉の価値や文化のつながりを意識しながら、国語を尊重して言語感覚を磨いていくことを目指します。古典文学から現代の文章まで、楽しみながら学んでいきましょう。